

令和7年
2025年

2月14日
金曜日

第11652号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料（前納）
年間 82,080円
（税込み）

6カ月 42,120円
（税込み）

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



とりせん、栃木農業高校の和牛甲子園出品牛販促イベントを開催……P6～7

- ▶ 畜酪委、「牛肉の多様化するニーズ」など議論があがる—自民党…… P 2
- ▶ スターゼン25年第3四半期決算、輸出や加工食品好調で増収…… P 2～3
- ▶ 【組織改組・人事異動】スターゼン（4月1日付）…P3
- ▶ 福留ハムの2025年第3四半期は売上高191億7300万円前年同期比2%減…… P 3
- ▶ [牛肉需給動向・12月] 推定出回り量は前年比1・5%…… P 4
- ▶ [人事異動・4月1日付] 日本食肉格付協会…P4
- ▶ [豚肉需給動向・12月] 推定出回り量は前年同月比2・1%増…… P 5
- ▶ スターゼン来年5月から東扇島に物流センター稼働、物流を効率化しコストやCO2削減…… P 5
- ▶ 神戸ビーフ地区対抗戦、個人は山崎さん返り咲き、団体は但馬地区が2連覇…… P 6
- ▶ とりせん、栃木農業高校の和牛甲子園出品牛販促イベントを開催…… P 6～7
- ▶ 宇都宮精肉商組合が総会を開催、消費拡大に向けた事業を推進していく…… P 7
- ▶ 「しまね美食のご縁会」がKITTE大阪で開催、丸山知事が県産和牛などをトップセールス…… P 8
- ▶ 米国2州で鳥フル、家禽肉などの輸入一時停止…… P 8
- ▶ [輸入牛現物相場] 豪州産の入船遅れ続く…… P 9
- ▶ [ブロイラー市中現物相場] ブラジル産モモ正肉ジリ高…… P 9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数] 13日…… P 10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場] 13日… P 11

注目のヘッドライン

畜酪委、「牛肉の多様化するニーズ」など議論があがる—自民党

自民党は畜産・酪農対策委員会を12日に開催。（13日付既報）委員会では、畜産・酪農関係団体からの要請などを踏まえ、議員から次のような意見があがった。

…詳細はP2

神戸ビーフ地区対抗戦、個人は山崎さん返り咲き、団体は但馬地区が2連覇

…詳細はP6

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12

営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930

総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

畜酪委、「牛肉の多様化するニーズ」など意見が上がる―自民党

自民党は畜産・酪農対策委員会を12日に開催。(13日付既報) 委員会では、畜産・酪農関係団体からの要請などを踏まえ、議員から次のような意見が上がった。

「長期的な計画を持ちながら酪肉近の議論に入っていくべきである。肉用牛について、価格が戻ってきたという話もあるが、現場で感じているのは、下げ止まり感はあるという程度。例年枝肉の相場が冷える次期だが、和牛肉消費拡大対策などによる効果は実感する。一方で、跳ね返りの結果につながるかは、農水省にも注視していただきたい。結果によっては、後発の策も検討してほしい」▽「この10年和牛の改良が進んでおり、どのように飼育しても5等級が出てしまうほどだ。短期間で肥育すると、枝肉が小さくなってしまい、採算に乗るのかということも考えていく必要がある。乳牛や交雑牛だけでは、低価格帯の牛肉の供給が難しい中、豪州のアン黒(アンガス種×黒毛和種)など、新たな品種を増やしていくことも検討していくべき。消費者が買えない社会情勢を考えた上で、どのランク・部位の牛肉を国内で消費していくか、明確

に表していかないといけない」▽「子供たちはA5の肉を喜んで食べる。需要と供給のギャップについては年代によっても違いがある。給食というのは消費量を期待できる。牛肉はコストが見合わないということから敬遠されがちだが、全国でキャンペーンを打ち出すなどで、小さいうちから牛肉に触れるような取り組みをすることを提案したい」▽「令和7年の酪肉近だということが分かるように、課題を示した上で、具体的な方向性を示すべき」▽「米政策との関連で、国産飼料用米などの増産に対する支援も打ち出していきたい」

これらの意見に対し、農水省畜産局の松本平局長は、「飼料用米について、畜産サイドからどのぐらいの飼料を国内自給しなければならないのか柱を作っていく」「肉用牛の価格については、基本出口から回していかないと、繁殖の方も元気になる」「肥育期間の短縮などは、流通関係者の理解が必要。生産現場の取り組みが進んでも流通に乗せることができないので、そこをみながら多様化するニーズに対応していきたい」と回答した。

スターゼン 25 年第 3 四半期決算、輸出や加工食品好調で増収

スターゼンは13日、2025年3月期第3四半期決算を発表した。それによると、売上高は3341億2800万円(前年同期比5・8%増)、営業利益は76億8千万円(1・2%増)、経常利益は86億8700万円(4・8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は60億1800万円(5・9%減)となった。同社グループは「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマに据えた中期経営計画の2年目を迎え、計画達成に向けた施策に取り組んできた。海外販売強化策として、同社の輸出向けブランドである「AKUNE GOLD」を「日本の食品」輸出EXPOをはじめ多くの国内外の展示会に出展し拡販を進め、豪州産Wagyu協会が開催したコンテストでは当社ブランドの八桜牛が金賞、御櫻牛が銀賞・銅賞をそれぞれ受賞し、今後の拡大の可能性を広げることができた。また、今後の海外展開の主軸とする豪州Wagyu

の供給強化を目的に、豪州の牛肥育企業であるYORKRANGE社の株式取得に関する決議をした。今後はこの農場で豪州Wagyuの生産に直接関与しつつ、中国や東南アジアを中心とした第三国への販売までトータルに手掛けることでサプライチェーン強化を図っていく。国内においては、「2024スターゼングループ秋冬商品提案会」を初めて開催し、同社の商品技術や強みを生かした新商品を提案、プロセスセンターおよびスキンパックの機能を生かした人手不足対策や海外進出サポートに関する取り組みなどを紹介。加えて、物流の2024年問題への対応として、新たな中継拠点の設置や物流網の再整備に取り組み、物流効率化に注力していく。部門別の業績は次のとおり。

[食肉] 売上高は2628億9500万円(5・5%増)。国内事業は、物価高による実質的な可処分所得の減

少により消費マインドが低下し、国産鶏肉などの比較的安価な食肉への需要シフトの動きがみられた。一方、和牛の海外輸出が堅調に推移したことから国産牛肉の収益が改善した。以上の結果、売上高、売上総利益ともに前年同期を上回った。カテゴリー別にみると、国産食肉においては、節約志向の高まりによる国産鶏肉の需要拡大や国産豚肉の相場高などの要因により、取扱量・売上高共に前年同期を上回った。売上総利益も、国産牛肉・国産鶏肉の相場が安定していたことから前年同期を上回った。輸入食肉においては、現地相場高や円安により輸入食肉価格が高止まりしたことから、取扱量・売上総利益は前年同四半期を下回ったが、売上高は前年同期を上回った。

輸出事業は、国内外の展示会に積極的に出展し、当社の輸出専用ブランド“AKUNE GOLD”や豪州産Wagyuの販売拡大を図ったことで、台湾、ヨーロッパ向け輸出が特に好調に推移した。

【加工食品】売上高は599億4500万円(11・8%増)。加工食品は、ハンバーグ商品群やローストビーフ関連商品が堅調に推移したため、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を上回った。

【ハム・ソーセージ】売上高は73億3500万円(16・5%減)。原材料価格のコスト上昇を踏まえ、価格改定や商品の統廃合、工場オペレーションの改善に努めたが、取扱量・売上高・売上総利益は前年同期を下回った。

【組織改組・人事異動】スターゼン(4月1日付)

【組織改組】海外本部輸入オファル・加工食材部を廃止する▷海外本部傘下に輸入プロイラー・加工食材部と輸入オファル部を新設する。

【人事異動】上席執行役員海外本部長(上席執行役員海外本部長兼海外企画部長)若松威男▷海外本部副本部長兼海外事業部長(海外本部副本部

長)阿由葉隆▷海外本部海外企画部長(海外本部海外企画部副部長)岡崎貴史▷海外本部輸入オファル部長(海外本部輸入オファル・加工食材部長)宣祐治▷営業本部食肉販売統括部特命部長/海外担当(海外本部海外事業部長)大石研士

福留ハムの2025年第3四半期は売上高191億7300万円 前年同期比2%減

福留ハムが13日に発表した2025年3月期第3四半期連結業績によると、売上高は、191億7300万円(前年同期比2・2%減)となった。利益については、営業損失3億2800万円(前年同期は営業損失1億7100万円)、経常損失3億100万円(前年同期は経常損失1億4400万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失3億2100万円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億3千万円)となった。セグメント別の業績は次のとおり。

【加工食品事業】消費者の節約志向は根強く、前年度からの価格改正による量販店向け主力商品の販売量が落ち込むなど売上高は減少。利益についても、原価圧縮や生産性向上に努めたものの、販売量が想定以上に減少し、前年同四半期を下回った。その結果、売上高は79億1200万円(前年同期比7・

4%減)、セグメント利益1億9100万円(30・2%減)となった。

【食肉事業】輸入牛肉・輸入豚肉が引き続き高値で推移したため、輸入商材の代替品として、経産牛やホルス切り落としなどが堅調に推移した。また、国内豚肉相場が安定しつつあること、消費者の節約志向上昇により安価な鶏肉の需要が高まったことから、豚肉・鶏肉の販売拡大に取り組み、食肉事業全体の売上高は前年同期を上回った。一方、利益については、円安による輸入商品の仕入コスト上昇ならびに物流コスト上昇の価格転嫁が十分に実行できなかったことと、年末における和牛・交雑牛の仕入価格高騰により、前年同期を下回った。その結果、売上高は112億6千万円(1・7%増)、セグメント損失8500万円(前年同期はセグメント損失2600万円)となった。

[牛肉需給動向・12月] 推定出回り量は前年比1・5%

農畜産業振興機構が発表した2024年12月分の牛肉需給動向によると、推定出回り量は7万6830t(前年同月比1・5%増)と前年同月を上回った。このうち国産品は3万631t(0・7%減)、輸入品は4万6199t(3・0%増)となった。

国内生産量は3万2225t(2・1%増)だった一方、輸入量は3万9209t(8・6%増)と増加した。これにより、推定期末在庫は国産品が1万694t(15・3%減)、輸入品が12万9801t(10・7%増)で合計14万495t(8・2%増)となった。

[牛肉需給]

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量		
			輸入物	国産物	輸入物	国産物	
4年	9	28,106(105.2)	51,912(102.7)	152,206(118.5)	13,633(95.4)	46,346(107.3)	27,015(106.5)
	10	28,863(101.0)	48,609(88.1)	151,851(114.2)	13,096(89.6)	48,964(96.5)	28,569(103.5)
	11	35,525(104.0)	39,413(92.4)	150,014(118.9)	12,699(89.7)	41,250(83.5)	35,235(104.2)
	12	31,727(101.2)	37,456(82.0)	142,876(118.7)	12,690(93.9)	44,594(86.6)	30,858(99.3)
5年	1	26,660(103.5)	39,915(98.8)	143,273(118.1)	11,956(90.5)	39,518(100.1)	26,963(105.4)
	2	26,497(107.4)	37,987(100.6)	142,589(119.4)	12,345(87.7)	38,671(97.5)	25,467(109.1)
	3	29,499(103.4)	36,768(108.4)	137,128(119.6)	12,596(95.6)	42,229(109.2)	28,484(98.8)
	4	30,207(101.6)	67,921(110.4)	147,784(129.4)	12,371(104.8)	57,265(92.4)	29,694(97.1)
	5	27,295(102.1)	46,459(101.5)	148,317(125.4)	12,252(97.8)	45,926(110.3)	26,851(105.4)
	6	28,418(102.7)	43,663(75.7)	148,065(114.2)	12,243(95.5)	43,915(94.7)	27,806(103.5)
	7	30,671(102.0)	38,693(74.4)	146,616(106.7)	12,474(94.1)	40,142(90.7)	29,809(102.8)
	8	26,782(101.0)	45,668(85.4)	148,038(101.0)	12,343(93.2)	44,246(100.1)	26,275(101.5)
	9	28,100(100.0)	37,023(71.3)	143,424(94.2)	12,902(94.6)	41,637(89.8)	26,739(99.0)
	10	30,422(105.4)	40,334(83.0)	137,851(90.8)	13,026(99.5)	45,907(93.8)	29,462(103.1)
	11	35,030(98.6)	33,409(84.8)	125,976(84.0)	12,805(100.8)	45,284(109.8)	34,409(97.7)
	12	31,557(99.5)	36,092(96.4)	117,207(82.0)	12,619(99.4)	44,861(100.6)	30,833(99.9)
6年	1	27,314(102.5)	43,264(108.4)	122,238(85.3)	11,618(97.2)	38,233(96.7)	27,712(102.8)
	2	26,904(101.5)	31,010(81.6)	117,666(82.5)	11,442(92.7)	35,582(92.0)	26,385(103.6)
	3	28,696(97.3)	38,362(104.3)	111,229(81.1)	13,108(104.1)	44,799(106.1)	26,259(92.2)
	4	31,124(103.0)	63,202(93.1)	124,210(84.0)	11,835(95.7)	50,221(87.7)	31,618(106.1)
	5	28,270(103.6)	48,512(104.4)	128,998(87.0)	12,269(100.1)	43,724(95.2)	27,283(101.6)
	6	27,418(96.5)	47,574(109.0)	135,344(91.4)	11,885(97.1)	41,228(93.9)	27,030(97.2)
	7	32,089(104.6)	49,342(127.5)	140,727(96.0)	11,271(90.4)	43,959(109.5)	31,959(107.2)
	8	25,885(96.6)	48,897(107.1)	147,288(99.5)	10,966(88.8)	42,336(95.7)	25,425(96.8)
	9	28,276(100.6)	38,168(103.1)	144,550(100.8)	11,298(87.6)	40,906(98.2)	27,023(101.0)
	10	31,210(102.6)	43,933(108.9)	145,078(105.2)	11,230(86.2)	43,405(94.6)	30,469(103.4)
	11	34,984(99.9)	34,574(103.5)	136,791(108.6)	10,867(84.9)	42,861(94.6)	34,417(100.0)
	12	32,225(102.1)	39,209(108.6)	129,801(110.7)	10,694(84.7)	46,199(103.0)	30,631(99.3)

[人事異動・4月1日付] 日本食肉格付協会

公益社日本食肉格付協会はこのほど、4月1日付の人事異動を次のとおり発表した。

南九州支所技術指導職(北海道支所長) 宝谷浩▽北海道支所長(東京事業所長) 松山省二▽帯広事業所長(支所管区事業所長) 市川雅規▽松阪事業所長(支所管区事業所長) 瀬戸裕介▽新潟事業所長(八雲事業所長) 海老沼友部▽宮崎事業所長

(山形事業所長) 俵道洋平▽山形事業所長(新潟事業所長) 梅崎裕次郎▽横浜事業所長(東京事業所主任) 佐藤俊輔▽八雲事業所長(京都事業所長) 神山洋▽東京事業所次長(松阪事業所長) 岡崎愛▽鹿屋事業所次長(有明事業所次長) 尾長谷憲志▽京都事業所長(姫路事業所主任) 南方諒▽東京事業所長(宮崎事業所長) 川畑義巳

[豚肉需給動向・12月] 推定出回り量は前年同月比2・1%増

農畜産業振興機構が発表した2024年12月分の豚肉需給動向によると、推定出回り量は16万5004t(前年同月比2・1%増)となった。このうち国産品は7万9425t(0・4%減)と減少した一方、輸入品は8万5579t(4・6%増)と増加した。

また、国内生産量は8万661t(0・6%減)と減少したが、輸入量は7万6518t(13・1%増)と前年同月を上回った。これにより、推定期末在庫は国産品が2万2458t(5・0%増)、輸入品が18万5736t(9・2%増)で合計20万8194t(8・7%増)となった。

[豚肉需給]

単位:トン、%

年月	生産量	輸入量	推定期末在庫		推定出回り量	
			輸入物	国産物	輸入物	国産物
4年 9	72,765(96.8)	72,520(97.7)	204,472(123.6)	19,371(88.3)	76,014(102.3)	73,623(96.9)
10	75,549(98.2)	75,744(97.3)	196,107(121.5)	19,698(92.2)	84,109(102.7)	75,135(97.2)
11	81,110(98.6)	87,886(112.0)	195,556(126.4)	18,751(86.8)	88,437(103.9)	81,919(100.0)
12	79,677(97.0)	68,853(92.5)	185,413(127.3)	19,816(86.5)	78,996(94.6)	78,456(97.3)
5年 1	77,322(97.2)	74,837(90.7)	188,666(122.5)	18,538(79.8)	71,584(96.5)	78,645(99.4)
2	72,986(98.9)	71,250(99.2)	189,121(121.2)	19,905(85.9)	70,795(101.4)	71,512(97.1)
3	81,689(98.3)	69,027(96.1)	189,572(121.4)	20,232(84.3)	68,576(95.5)	81,215(98.8)
4	73,794(96.8)	109,570(100.7)	204,045(120.0)	20,573(92.5)	95,097(100.2)	73,311(94.2)
5	76,116(105.0)	89,729(115.9)	223,902(126.5)	20,193(90.0)	69,872(99.2)	76,372(105.8)
6	73,486(100.4)	81,311(91.1)	225,208(117.1)	19,586(92.6)	80,005(108.2)	73,928(99.4)
7	68,264(101.2)	74,831(90.1)	220,067(110.0)	20,758(97.7)	79,972(106.3)	66,926(99.6)
8	70,175(99.5)	73,862(85.4)	217,704(104.7)	21,032(103.3)	76,225(97.0)	69,796(97.8)
9	69,500(95.5)	61,727(85.1)	203,477(99.5)	21,452(110.7)	75,954(99.9)	68,945(93.6)
10	78,467(103.9)	70,100(92.5)	192,812(98.3)	19,689(100.0)	80,765(96.0)	80,065(106.6)
11	82,650(101.9)	74,813(85.1)	184,253(94.2)	20,154(107.5)	83,372(94.3)	82,084(100.2)
12	81,152(101.9)	67,663(98.3)	170,120(91.8)	21,381(107.9)	81,796(103.5)	79,774(101.7)
6年 1	80,283(103.7)	72,027(96.2)	173,172(91.8)	20,836(112.4)	68,975(96.4)	80,748(102.7)
2	77,558(106.3)	64,527(90.6)	165,686(87.6)	21,439(107.7)	72,013(101.7)	76,853(107.5)
3	77,333(94.7)	74,351(107.7)	166,119(87.6)	23,117(114.3)	73,918(107.8)	75,518(93.0)
4	78,976(107.0)	98,780(90.2)	174,059(85.3)	22,670(110.2)	90,840(95.5)	79,317(108.2)
5	76,183(100.1)	94,087(104.9)	189,925(84.8)	24,239(120.0)	78,221(111.9)	74,520(97.6)
6	66,310(90.2)	81,660(100.4)	193,156(85.8)	24,750(126.4)	78,429(98.0)	65,692(88.9)
7	71,679(105.0)	86,155(115.1)	195,529(88.8)	23,227(111.9)	83,782(104.8)	73,101(109.2)
8	65,651(93.6)	84,078(113.8)	200,290(92.0)	22,108(105.1)	79,317(104.1)	66,675(95.5)
9	68,773(99.0)	78,666(127.4)	201,197(98.9)	21,580(100.6)	77,759(102.4)	69,219(100.4)
10	79,625(101.5)	86,742(123.7)	201,922(104.7)	21,384(108.6)	86,017(106.5)	79,699(99.5)
11	78,361(94.8)	78,216(104.5)	194,797(105.7)	21,389(106.1)	85,341(102.4)	78,249(95.3)
12	80,661(99.4)	76,518(113.1)	185,736(109.2)	22,458(105.0)	85,579(104.6)	79,425(99.6)

スターゼン、来年5月から東扇島に物流センター稼働 物流を効率化しコストやCO2削減

スターゼンは13日開催の取締役会において、14日付で、川崎区東扇島にある物流センターの「定期建物賃貸借契約」を締結すると決議した。

同社は中期経営計画(2023~25年度)で、「収益構造の再構築とサステナブルな事業運営」をテーマとし、基本戦略の柱の一つに「物流拠点の再整備」を掲げており、具体策の一つとして東西に物流・営業を担う2拠点を新設することと、昨年2月に公表。

東の拠点として詳細を計画してきた、ダイワコーポ

レーションが川崎市の東扇島に建設中の物流センター(スターゼン東扇島センター)について、同社との間で「定期建物賃貸借契約」を締結する。

スターゼン東扇島センターは3万9129.75㎡(賃貸借部分)、構造規模は鉄骨造地上7階建。保管能力が2万7千tと従来の2.5倍になるほか、保税倉庫認証取得によって当該業務拡大を目指し、物流効率化によるコスト抑制やCO2排出量削減などが可能となる。2026年5月からの稼働を予定している。

神戸ビーフ地区対抗戦、個人は山崎さん返り咲き、団体は但馬地区が2連覇

兵庫県内の各地で生産されている「神戸ビーフ」の生産地域別の対抗戦である「第16回兵庫県地域ブランド牛枝肉共励会」が7日、加古川食肉地方卸売市場で開催された。主催は神戸肉流通推進協議会。数年前から農業高校なども参戦し、年に1度開催されている。

今回、55頭(雌14頭、去勢41頭)が出品され、個人の最優秀賞にみのり農業協同組合出荷・山崎純子さん(下写真)出品牛を選出。山崎さんは一昨年に同賞を受賞しており、2年ぶりにチャンピオンに返り咲いた。競りではキロ当たり5990円で兵庫県淡路市の食肉卸(有)とうげが落札した。団体では地域ブランド「本場但馬牛」を擁する但馬地区が昨年に続き優勝した。

兵庫県が誇るブランド牛・神戸ビーフ(但馬牛)は、その肥育地域ごとに「淡路ビーフ」「三田肉」「加古川和牛」などの地域ブランドが存在しており、年に1度、それら10地区の地域ブランド牛と、肉牛肥育を行う県内農業学校チームを合わせた11区で出来栄を競うのがこの共励会。

山崎さん出品牛は、31カ月齢の去勢牛で、枝肉重量474kg。格付はA5等級でBMSNo.12。血統は父「丸池土井」、母の父「芳山土井」。山崎さんは、県産但馬牛の肥育のみ300頭飼養。最優秀牛は淡路家畜市場で導入。子息の大地さんによると「導入時は発育が良く、無駄脂のない良い腹ができた牛だった。肥育時も、餌食いが良く、手がかからない牛で、順調に育った。出荷前はお尻が大きく張りがあり、仕上がりが良かった。われわれの黒田庄地域では、こ



の共励会に当たって予選会をすることを決めており、予選会で他の生産者と見比べながら選畜した。その中でも良い感触だった。枝肉も抜群の仕上がりがったと思う」と喜びを語った。



そのほかの入賞牛の出品者は次のとおり。

優秀賞 高橋副武(6千円、購買者=太田家)、神戸井相田牧場(5415円、エスフーズ)▽優良賞 寺内昭則(5770円、同)、県立但馬農業高校(5330円、太田家)、兵庫県立農業高校(5310円、ミムラフーズ)

とりせん、栃木農業高校の和牛甲子園出品牛販促イベントを開催

(株)とりせん(群馬県館林市、前原宏之社長)は9日、同社が展開するスーパーマーケット「とりせん 栃木店」および「とりせん 蔵の街店」において、1月17日に開催された「第8回和牛甲子園」に栃木県立栃木農業高校が出品した去勢牛「和田650」を使用した商品の販促イベントを開催した。

今回で6回目を迎える同イベント。同社は栃木農高

の出品牛を一頭買いし、焼き肉用としてウチモモ・クリ・ササバラの盛り合わせ、ステーキ用としてサーロイン・ザブトン・ランプ、すき焼き用としてロースなどの部位を用意したほか、総菜としてスネ肉を使用したハンバーグ、また、栃木市に本社を構える滝沢ハム(株)(瀧澤太郎社長)とコラボレーションし調理した、ソトモモを使用したローストビーフや、ローストビーフ

井、ローストビーフ握りも提供。

そのうち栃木店で開催されたイベントには栃木農高動物科学科3年生の生徒ら7人が参加。購入者へイベント限定オリジナルグッズを配布するなどし、PRした。参加した生徒たちは「自分たちが育ててきた牛が出荷され、枝肉になった姿もみたが、商品としてパックになり、お客さまの手に渡っている様子を見られることはよりうれしさをを感じる。頑張っけて育ててきたので、おいしく召し上がってほしい」「お客さまの前に立つことに初めは緊張したが、おいしそうに試食されている姿や、熱心に肥育期間の話を書き添えてくださることに喜びを感じた」と語った。また購入者の中には、生徒の家族や同校の教諭なども来店。「和牛甲子園への参加のほかに、共励会や共進会への参加も見聞きしてきた。高校生が大きな牛を従えて歩いている姿を誇らしく思う」「収穫祭として、ホルスタイン種を同校の全校生徒で食す機会があり、育てている様子も目にしながら、その命をおいしくいただく、生徒たちにとって良い機会となっている」と生徒らの活動へ賞賛



を述べた。

とりせん店舗運営部第5ブロックの栗原洋晃マネジャーは「1年で一番楽しみにしている本企画。購入いただいたお客さまの喜んでる姿はもちろんのこと、参加いただいている生徒さんたちが、初めての販売という経験を、笑顔で楽しそうに取り組んでくれていることを毎年うれしく思っている。今後も入賞牛の肥育を目指していただき、われわれもそれを全力でバックアップしていきたい」と今後への期待と展望を述べた。

宇都宮精肉商組合が総会を開催、消費拡大に向けた事業を推進していく

宇都宮精肉商組合(斎藤正一組合長、写真)は9日、宇都宮市川田町の宇都宮畜産食肉組合大会議室で令和6年度通常総会を開催した。総会では、6年度事業報告および収支決算報告、7年度事業計画案および収支予算案など提出全議案を原案どおり可決した。任期満了に伴う役員改選では斎藤正一組合長が留任した。総会の冒頭、斎藤組合長は「本年度も県産食肉の消費拡大に向けて、組合員が協力して事業を推進していく」とあいさつ。来賓として、栃木県食肉生活衛生同業組合の鈴木宏幸理事長、栃木県臓器協同組合の加賀田敏雄理事長が激励に駆け付けた。

議案審議では令和7年度事業計画案として、①組合員の意識の高揚と組織の強化を図る②食肉の需要供給の動向に対処し、需要増進を図るとともに、食肉の消費拡大の宣伝を実施する③食肉三水会および業界後継者の育成強化のために、一層の努力をする④関係機関、諸団体との連絡を密にし、相互の協

調を強化し、組合の円滑なる発展を図る⑤栃木県産牛、豚肉の品質の評価は高く、より一層の拡販を図るとともに、栃木県食肉消費対策協議会に積極的に参加し、販売促進に努力する⑥国内外の食肉に関する専門知識や食肉販売技術向上のために、視察、研修を実施する一などの計画案を承認した。経営セミナーでは、「食肉業界の動向と今後の展望について」をテーマに講演が行われた。



新役員および新任監事は次の各氏。

組合長 斎藤正一▽副組合長 関口護洋、朝倉通夫、加賀田知治▽監事 森隆弘、大浦晃二(新任)▽相談役 加賀田敏雄、渡邊秀夫、鈴木宏幸

「しまね美食のご縁会」をKITTE 大阪で開催 丸山知事が県産和牛などをトップセールス

島根県が主催する「しまね美食のご縁会」が11日、大阪市北区の東寶(ドン パオ) KITTE大阪店で開催された。メディア、インフルエンサー、外食関係者らを招き、島根県産の農畜産物をPRする交流会を行った。

同会は、県産の銘柄牛である「しまね和牛」のほか、熟豊ファームが生産し、京都の老舗食肉卸・銀閣寺大西が販売に取り組んでいる黒毛和牛の経産牛ブランド「サステナブル和牛"熟"」などを中心とした県産食材の魅力をPRし、観光客誘致や販路拡大を目的としたイベントで、銀閣寺大西、熟豊ファーム、県内最大の和牛生産グループである松永牧場の関係者らが出席した。

会の冒頭、島根県の丸山達也知事(上写真左から2番目)は出席者に謝辞を述べた後、「本日は島根県の食材を多くの皆さまに知っていただくための会として、こういった場を設けさせていただいた。本日、主な食材として和牛をご紹介させていただくが、黒毛和牛には『しまね和牛』などの一般的な和牛のほかに、子供を産んだ牛である経産牛というものがある。そして、この経産牛は、これまで日本ではおいしい価値のある食材として扱ってこなかったが、熟豊ファームさんでは、この経産牛をしっかりとした牛に再肥育することで、新たな付加価値を創造し、世界に向けて販売しようとして取り組んでおられる。現在、この牛肉は、日本国内よりもむしろヨーロッパなど海外で高い評価を受けているようで、昨年、ロンドンで開催されたワールドステーキチャレンジという世界的な国際品評会の和牛部門で金メダルを獲得したとのうれしいニュースもあった。そのほかにも、島根県の県立美術館には、松江出身の実業家である新庄二郎さんという方が寄



贈された葛飾北斎の"赤富士"をはじめとする世界的にも有名な浮世絵の名画が多数展示されている。このように島根県には多くの文化財、史跡などもたくさんあるので、ぜひ今回をご縁に、大阪からも沢山ご来訪いただけたらうれしい」とあいさつ。

その後は、生産企業や、ブランド銘柄、島根県の名所・観光案内などのプレゼンテーションが行われる中、松永牧場の黒毛和牛リブローズを使用した「しまね和牛のしゃぶしゃぶサラダ」や、熟豊ファームの経産牛リブローズを使った「サステナブル和牛 熟 ブラックペッパーソース炒め」など、県産食材を使った多彩な料理が供された。

米国2州で鳥フル、家禽肉などの輸入一時停止

農水省動物検疫所は10日、米国家畜衛生当局から提供された情報により高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されたため、ジョージア州エルバート

郡およびノースカロライナ州全域から日本向けに輸出される生きた家禽、家禽肉等の輸入を一時停止した。

【輸入牛現物相場】 豪州産の入船遅れ続く

チルドは豪州産の入船遅れが常態化。本来であれば1月下旬から2月上旬までに入荷している商品が2月下旬にずれ込んだことで、全体的な逼迫^{ひっぼく}が起きている。これに伴い、相場は高値推移。ただし、年明け

以降は消費も落ちる時期であり、引き合いについてもモモやスソ物に限定され、混乱は生じていない。

米国産は通関切れにより、若干の在庫過多となっている。一部アイテムで相場を下回る商品も散見されるが、現地相場が高値で推移しているため、大きな相場下落はなさそう。

フローズンは豪州産、米国産ともに買い付けを抑えているが、現地相場高で値頃感を打ち出せず、引き合いは弱い。

【輸入牛肉現物相場】

円/キロ

		グラス	ショートグレイン
豪州産	トップサイド	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,420
	シックフランク	1,230 ~ 1,300	1,280 ~ 1,420
	アウトサイド	1,200 ~ 1,300	1,300 ~ 1,380
	ポイント	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,400
	ナーベル	1,240 ~ 1,300	1,280 ~ 1,400
	ランプ	1,480 ~ 1,700	1,550 ~ 1,900
	クロッド	1,250 ~ 1,300	1,350 ~ 1,450
	チャックロール	1,350 ~ 1,450	1,500 ~ 1,600
	チャックテンダー	1,300 ~ 1,350	1,380 ~ 1,450
	キューブロール	2,600 ~ 2,800	3,450 ~ 3,970
	ストリップロイン	2,000 ~ 2,200	2,250 ~ 2,550
	テンダーロイン	4,000 ~ 4,400	4,400 ~ 4,600
豪州産 F	チャック&ブレード	-	-
	ポイント	1,150 ~ 1,250	-
	ナーベル	1,200 ~ 1,250	-
	カウミート	960 ~ 1,200	-
	トップサイド	1,200 ~ 1,350	-
	シックフランク	-	-

		チルド	フローズン
米国産	スクウェアカットチャック	-	-
	ショルダークロッド	1,600 ~ 1,700	1,500 ~ 1,600
	ショートプレート	1,300 ~ 1,350	1,200 ~ 1,250
	ボンレスショートリブ(チョイス)	5,800 ~ 6,000	-
	ボンインショートリブ	-	-
	チャックリブ(チョイス)	3,400 ~ 3,510	-
	ストリップロイン(チョイス)	4,000 ~ 4,500	-
	リブアイロール(リップオン)	4,700 ~ 4,800	-
	テンダーロイン	5,000 ~ 6,000	-
	ステーキレディ	-	-
	チャックアイロール(チョイス)	2,050 ~ 2,230	1,850 ~ 2,000
	同(プライム)	2,500中心	2,200 ~ 2,300

【ブロイラー市中現物相場】 ブラジル産モモ正肉ジリ高

◇国産物 季節なりに鍋物、煮物用途での生鮮モモの需要は縮小しているものの、増体不良などもあり生産量はタイトな状況が続いている。また、生鮮ムネはモモの代替として引き合いが強い。冷凍物はおおむねもちあいが、煮物などでの調理機会の減少から手羽モトは値を下げた。

替の不透明感や鳥インフルエンザの危惧などもあり、輸入物全般に先高観が出ている。

◇輸入物 ブラジル産モモ正肉は予測される輸入量がやや少ないことと、現地オファーの上昇もあり、ジリ高で推移している。為

ブロイラー現物相場	
国産冷凍物	
モモ正肉(産地凍結)	700中心
ムネ正肉(〃)	400中心
手羽モト(〃)	420中心
手羽サキ(〃)	玉なし
砂キモ(〃)	玉なし
ササミ(〃)	420~450

輸入物	
米国産モモ正肉(240g UP)	460中心
米国産ジャンボレッグ(350g UP)	350中心
米国産B I L	510~530
ブラジル産モモ正肉	400~410
ブラジル産モモ角切り	460~480
ブラジル産皮なしモモ正肉	470中心
ブラジル産グリラー(1000gUP)	510中心
ブラジル産手羽サキ(50g UP)	600中心
タイ産モモ正肉	480~490
タイ産モモ角切り(25~30g)	460~470
米国産モモ串	玉なし

単位：円/キロ

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 2月13日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A 83頭	高値	3,288	2,749	2,208	-	-
		安値	2,215	2,157	2,017	-	-
		平均	2,639	2,355	2,135	1,745	-
		頭数	54	24	4	1	-
	雌 B 3頭	高値	-	-	-	1,755	-
		安値	-	-	-	1,749	-
		平均	-	2,118	-	1,752	-
	去 A 171頭	高値	3,443	2,505	2,270	-	-
		安値	2,186	2,163	1,833	-	-
		平均	2,630	2,325	2,149	1,749	-
		頭数	112	48	10	1	-
	去 B 1頭	高値	-	-	-	-	-
安値		-	-	-	-	-	
平均		-	-	-	1,744	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B 14頭	平均	-	1,568	1,472	1,358	-
		頭数	-	3	8	3	-
	雌 C 1頭	平均	-	-	-	1,299	-
		頭数	-	-	-	1	-
去 B 31頭	平均	-	1,661	1,550	1,437	-	
	頭数	-	7	13	11	-	
去 C 8頭	平均	-	1,566	1,564	1,319	-	
	頭数	-	1	1	6	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜 売買	398 389	1,136 1,129	- 98.5	(競り)	(相対)	
				-	2	63

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	-	1,416	1,431	1,436	-
	B	-	1,449	1,378	1,318	867
和 去	A	2,722	1,884	2,033	-	-
	B	-	-	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	920	851
	C	-	-	-	902	821
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	-	1,417	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 去	B	-	-	1,346	-	-
	C	-	-	-	-	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	647	821	754	604	562
	安値	594	583	571	513	378
	平均	624	614	594	561	468
	頭数	(6)	(349)	(450)	(170)	(154)
搬入 競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入 相対	高値	-	-	-	-	524
	安値	-	-	-	-	524
	平均	-	-	-	-	524
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(2)

[大阪食肉卸売市場] 2月13日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,395	2,153	1,982	-	-
(頭数)	(17)	(13)	(4)	(-)	(-)
B	2,264	-	1,944	-	-
(頭数)	(1)	(-)	(1)	(1)	(-)
和 去 A	2,445	2,159	1,886	-	-
(頭数)	(11)	(7)	(2)	(-)	(-)
B	-	1,997	-	-	-
(頭数)	(-)	(1)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	994	-
交雑雌 B	1,892	1,769	1,620	1,492	-
C	-	-	1,496	1,503	-
交雑去 B	1,896	1,782	1,627	1,494	-
C	-	-	1,578	-	-
豚	-	-	634	574	487

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	2月13日	2月12日	(2月累計)
豚	70,600	73,800	547,600
成牛計	4,360	4,610	35,960
和牛雌	1,000	1,100	8,260
和牛去勢	950	1,350	9,610
乳牛雌	1,030	520	5,550
乳牛去勢	540	630	4,430
交雑雌	420	470	3,690
交雑去	420	540	4,400

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 2月13日

	1,498円	(前日 1,466円)
東京		
	1,521円	(前日 1,626円)
大阪		

[豚・全農建値] 2月13日

上	中	取引頭数	市況
605円	582円	1,260頭	急落

と畜 売買	牛 104頭	豚 161頭	牛概況	まちまち
	牛 105頭	豚 76頭	豚概況	もちあい

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 2月13日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	6,368	-	もちあい
仙台 [中]	590 (587)	539 (544)	355	63	続伸
宇都宮 [地]	618 (664)	558 (580)	1,569	30	続落
茨城 [地]	615 (623)	596 (602)	1,440	850	続落
群馬 [地]	599 (603)	501 (482)	2,608	570	小幅安
さいたま [中]	584 (602)	558 (573)	299	300	続落
東京 [中]	614 (622)	594 (603)	1,136	1,129	小幅安
横浜 [中]	619 (631)	595 (606)	637	636	下押し
山梨 [地]	630 (650)	614 (639)	112	81	下押し
浜松 [地]	598 (603)	542 (549)	265	35	弱もちあい
名古屋 [中]	615 (604)	586 (575)	976	296	続伸
京都 [中]	610 (-)	609 (-)	76	69	もちあい
大阪 [中]	- (675)	634 (595)	161	44	-
神戸 [中]	639 (627)	624 (659)	54	125	上伸
岡山 [地]	652 (668)	644 (659)	290	364	弱気配
広島 [中]	- (608)	- (574)	309	-	上場なし
福岡 [中]	588 (586)	557 (560)	570	191	強もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 2月6日~2月12日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,751,053 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,102	1,218	1,310	1,218	67,076
うで	734	778	839	785	135,849
ロース	1,054	1,185	1,291	1,170	132,125
ばら	1,136	1,248	1,350	1,244	164,557
もも	745	757	811	772	234,967
ヒレ	1,102	1,196	1,419	1,229	13,272
セット	933	1,027	1,057	1,017	1,003,207

◇近畿圏 総重量 791,479 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,080	1,242	1,333	1,223	65,326
うで	728	745	779	745	125,858
ロース	1,037	1,166	1,253	1,155	107,011
ばら	1,080	1,242	1,264	1,199	153,490
もも	714	735	761	738	163,593
ヒレ	1,140	1,241	1,247	1,224	13,863
セット	912	988	1,085	995	162,338

[食鳥正肉日経相場] 2月12日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	-	-	-	-
ムネ	-	-	-	-

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	703	754	1,030	8
ムネ	358	402	590	8

[農水省統計情報部食鳥市況] 2月10日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	1,016	618	550	600	650
安値	718	387	290	360	350
平均	775	417	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする 食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。